

「SDGs」は特別なこと ではありません

鹿屋高等学校 地歴公民科

みなみむれ 南牟禮 教諭
みきお 幹男 教諭



SDGsは私たちの身近にあります。ただ、SDGsの17の目標を見たとき「それって発展途上国の問題じゃないの?」「日本、鹿児島、鹿屋とどう関係があるの?」と感じる方もいらっしゃるかもしれません。ここで、少し考え方を考えてみましょう。NHKによると、鹿児島県は公立高校の88.2%が定員割れの状況にあります(平成31年4月時点)。この割合は全国で3番目に高い数値になっており、教育への悪影響を懸念する有識者の声もあります。この状況から

SDGsは私たちの身近にあります

よりよい社会をつくるための国際的な目標。SDGs (Sustainable Development Goals)とは、2015年に国際連合で採択された、2030年までに達成すべき「持続可能な開発目標」のことです。SDGsには、今生きている人だけでなくこれから生まれてくる人も含めた「地球上の誰一人取り残さない」社会の実現を目指した17の目標が定められています。「持続可能な開発目標」といわれてもよくわからないかもしれませんが、簡単にいうと「世界にある様々な問題を解決して、よりよい社会をつくるための目標」ということです。

SDGsは私たちの日常とも深く関わっています。例えば地域行事への参加や資源ごみのリサイクルといった身近な取り組みも、目標の達成につながっています。また、子どもたちとSDGsについて話すことは、子どもたちの視野を広げ、社会と関わるきっかけ作りにもなります。SDGsを特別なことと捉えるのではなく、日常生活と結びつけて考えてみることで、目標達成への第一歩であると思っています。

SDGsに関心を持って意識して考えることが大事です

DGsの4番「質の高い教育をみんなに」の達成に課題を抱えていると言えます。定員割れの背景には少子化や人口減少の問題があると考えるなら、11番の「住み続けられるまちづくりを」に関する問題とも言えます。また、4年制大学の進学率について、鹿児島県内の男子と女子との間で全国平均以上に大きな格差があることを指摘するデータもあり(朝日新聞による)、この問題は5番の「ジェンダー平等を実現しよう」という目標の達成度合いに関わってきます。実際に日本全体でも、17の目標のうち現時点で達成しているのは3つのみとなっており、SDGsは日本、そして鹿児島、鹿屋にとっても重要な問題と言っていでしょう。

一人ひとりの行動が 未来を変える

エスディー・ジーズ
~私たちの身近にある「SDGs」~

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



近年、テレビや新聞など様々な場面で見聞きするようになった「SDGs」。上のマークは「SDGs」の17の目標を表していますが、「よくわからない」という人も多いのではないのでしょうか。

ここでは、私たちの身近にある「SDGs」について紹介します。



SDGsの17の目標はそれぞれ密接に関連しており、「経済」、「社会」、「環境」の3つの側面のバランスのとれた、持続可能な開発を目指しています。

ここからは、3つの側面に沿って、市内の事例を紹介します。